

事業所における環境保全活動

「企業は、その生産活動の基盤となっている地域社会に貢献し、その地域社会に迷惑をかけないことが、基本である」　これは、1993年6月に当時の荻野社長がミネベア環境対策委員会で述べた言葉です。

この姿勢は今も変わることなく全世界のミネベアグループで受け継がれ、環境保全への努力、取り組みが行われています。これら事業所における活動事例を紹介します。

省エネルギー / 地球温暖化防止の取り組み

■ グリーン電力の購入

(上海美蓓亚精密机电有限公司)

上海美蓓亚精密机电有限公司(以下、上海ミネベア)は、2005年6月12日、上海市のグリーン電力購入第1期に参画する企業として、上海市政府より表彰されました。

上海市の弘基休閑広場で行われた表彰式では、合計15社の企業(当局関係組織を含む)が表彰されました。

グリーン電力とは、太陽エネルギーや風力エネルギーなどの自然エネルギーで発電された電力を指します。この電力を使用するメリットは、二酸化炭素(CO₂)の排出を削減し、地球温暖化防止に大きな効果があります。

上海市は海に面して、風力発電所の立地に適した場所が多く、上海ミネベアは、7月末から電力供給を受ける予定です。



上海市より授与されたグリーン電力購入の表彰状



グリーン電力購入調印式典にて。周禹鵬 上海市副市長(右)と
藤澤 進総経理



浜松工場の上水ポンプ制御盤に取り付けられたインバーター装置

■ グリーン工場の認定(タイ)

タイ国王妃72歳の記念行事として行われたグリーン工場の審査において、バンパイン、アユタヤ及びロジャナの各工場は、2004年10月28日にタイ政府機関のグリーン工場認証を取得しました。

ミネベアは、工場建設時より積極的に事業所内の緑化を行ってきましたが、特に今回認定の対象となった3工場は、従業員に冷涼な憩いの場を提供するとともに、地球温暖化の防止に貢献しています。



事業所内に樹木の生い茂るタイ・バンパイン工場
(正面入口より、事業所内メイン通路をのぞむ)

有害化学物質の管理

■ 蛍光X線分析装置を用いた部品受入管理

(タイ、中国)

ヨーロッパにおけるRoHS指令、ELV指令を中心に、製品に含まれる有害化学物質(鉛、水銀、カドミウム、6価クロム、PBB、PBDE)を規制する動きが世界中で始まっています。

これらの規制に対して、ミネベアはグリーン調達を開始し、有害化学物質を含まない原料、部材の購入に努めています。ミネベアは主要生産工場を有するタイと中国に、短時間で複数の化学物質の分析を行うことができる最新型の蛍光X線分析装置(通称:XRF)を導入し、有害化学物質の含有を部品受入検査時に分析できる体制を整えました。



XRF(蛍光X線分析装置)を用いた受入検査の導入(タイ・バンパイン工場)

土壤 / 地下水汚染に対する取り組み

■ 塩素系有機溶剤による汚染と対策

テトラクロロエチレンやトリクロロエチレンといった塩素系有機溶剤は、その優れた洗浄性から多くの精密部品やコンピューター・電子部品の洗浄に大量に使われてきました。

しかし、設備や容器から漏れ出したこれらの液体や蒸気は、水や空気より重いことから地下の土壤や地下水に浸透し、長期間蓄積されてきました。

ミネベアでもこれらの溶剤を過去に使用していましたことから自動的に調査を行った結果、軽井沢工場、藤沢工場、大森工場、旧一関工場跡地で地下水の汚染が確認されました。

ミネベアは、その結果を管轄する行政に報告するとともに、行政の指導を受けながら土壤、地下水の汚染改善に取り組んでいます。